最近に於ける水車の進步

深 栖 俊 一*

The Recent Development of Water Turbines

By Shun'ichi Fukasu Hitachi Works, Hitachi, Ltd.

Abstract

The five-year electric supply exploitation scheme planning the construction of hydraulic power stations which are expected to develop the maximum output of 1,260,000 kW and the yearly output of 4,700,000,000 kWh in total, has entered the last year. And under the scheme many a noteworthy product has been accomplished to make the scheme highly successful.

Hitachi, Ltd. also participating vigorously in the role of manufacturing for the scheme, has yielded several record making machines especially in the field of water turbines.

The writer goes into the subject in this article touching the design and manufacturing technique for Hitachi Water Turbines.

[I] 緒 言

経済復興5箇年計画による電源開発は昭和24年より同28年に到る間に、水力発電設備として最大出力126万kW,年間発電々力量47億kWhを増加せしめる立案であつたが⁽¹⁾、24年末に石河内第一、赤松、新湯村、蘭越発電所等の第一次の新設工事が着手されて以来、昭和25年末より戦後の新設計によるものが次第に竣工を見るに到つた。昭和26年度に於ては新設計画も飛躍的に増大し、昭和27年度に入つてこれ等の大容量機が続々製作完了され、又引続き製作されている。外国に於ても大規模の水力開発が行われており、例えば1950年始めに於ける米国の工事中の水力発電所の出力は450万kWに達している⁽²⁾。

このような水力開発の活発化と共に、製作工場若しくは学校研究所等の設備復興及び技術陣容の整備等の好転により水車及びその調整装置の設計は戦前又は戦時中に比し飛躍的に進歩して来た。これは製作者側の非常な努力の結果によることは勿論であるが、最近は使用者側に於ても積極的に研究的態度を以て新構想によるものを採用するに到つたことも大きな因子であると考えられる。 6昭和27年度に於ては国内の各水車製作者の大部分がそれぞれ外国の著名製作者と技術提携を行ない、諸種の

* 日立製作所日立工場

資料を提供したことも与かつて多少力があつたように思 われる。

日立製作所はこの間第1表(次頁参照)の如く丸山発電所用 70,000 kW フランシス水車、本名発電所用 30,000 kW カプラン水車、松尾川第二発電所用 22,200 kW ペルトン水車、白根発電所用 12,000 kW 竪軸ペルトン水車、沼沢沼揚水発電所用 23,000 kW 横軸フランシス水車(3) 等本邦に於ける各水車のあらゆる最大もしくは最初の記録的製品を受注し製作中であるが、或いは既に運転に入っているものもあり、それに伴う技術的進歩は特に著しいものがあるので、こゝにその二三を紹介する。

〔II〕フランシス水車

(1) 水 車 効 率

水車の効率は最近次第に上昇してきたことは各製作者の見積入札時毎に提出する効率の保証値が漸次上昇の傾向にあることからも知られるが、フランシス、カプラン、ペルトン水車何れもその数値は著しく上昇している。これは終戦後既設水車の補修品もしくは改造品として極めて多数のランナーを設計製作納入し何れも良好な実績を收めたこと(4)、水力実験室に於て、多数の模型水車に就き試験検討を行ないランナー羽根形状もしくは出入口角度の改良等を計つたこと等に基因する(5)。例えば日立工場水力実験室にて施行された模型試験結果の中、竪軸フラ

第 1 表 本 邦 に 於 け る 各 水 車 製 作 記 録 (其の 1) Table 1. Large Capacity Water Turbines Completed in Japan (Part 1)

フ		• •		-	-14	=
	7		• /	_	716	##

Ť	納	先	i	発	電所	名	出 kW	落 m	水 量 (m³/sec)	回転数 (r.p.m.)	型式	台数	製作者	運転開始
関	西	電	力	丸		Щ	70,000	80.70	96.50	163.8	FSS-V	2	日立-1 電業-1	昭—28
北	陸	電	力	神	通 第	;	48,000	65.00	81.30	171.5	FSS-V	2	日立	昭—28
九	州	電	カ	Ŀ	推	葉	47,500	144.50	73.00	300.0	FSS-V	2	電 業	昭—29
玉			鉄	Ŧ		手	44,700	58.00	89.10	150.0	FSS-V	5	日 立	昭—12
関	西	電	力	椿		原	42,000	69.00	72.25	180.0	FSS-V	1	三 菱	昭—27
東	京	電	力	信	濃	JII	39,000	109.85	39.20	214/257	FSS-V	5	J.M.V.	昭—14
関	西	電	カ	黒:	部川箩	 	33,000	280.00	11.10	500/600	FSS-V	3	電 業	昭—15
東	北	電	力	秋		元	32,000	171.40	22.10	375.0	FSS-V	2	電 業	昭—14
関	西	電	力	蟹		寺	28,600	134.55	23.50	300.0	FSS-V	2	E.W.	大—14
[玉]			鉄	小	千	谷	27,500	48.22	64.80	167.0	FSS-V	3/5	日 水	昭—25
東	京	電	力	佐		久	26,900	112.20	26.40	300.0	FSS-V	3	A.C.	昭一 3
関	西	電	力	黒	部川箩	第二	26,100	178.90	17.40	375/450	FSS-V	3	電 業	昭—11
関	西	電	力	市	荒	Ш	26,000	69.00	43.20	200.0	FSS-V	2	日 立	昭—19
中	部	電	カ	平		岡	25,000	46.00	-	150/180	FSS-V	3/4	電 業	昭—26
関	西	電	力	御		獄	25,000	229.00	12.85	500/600	FSS-V	2	日 立	昭—19
東	北	電	力	伊	南	111	25,000	109.00	25.20	300.0	FSS-V	1/3	日立	昭— 2
中	部	電	力	大	井	III	23,500	115.10	20.85	500/600	FSS-V	3	電 業	昭—11
東	北	電	力	沼	沢	沼	23,000	215.50	12.10	500/600	FDS-H	2	日 立	昭—26
東	北	電	力	宮		下	21,800	41.00	58.40	166.7	FSS-V	4	電 業	昭—27
北	海道	恒 電	カ	雨		龍	21,700	170.00	15.50	375.0	FSS-V	3	日 立	昭—15
関	西	電	力	寝		覚	21,000	64.50	38.00	200/240	FSS-V	2	日 立	昭—13

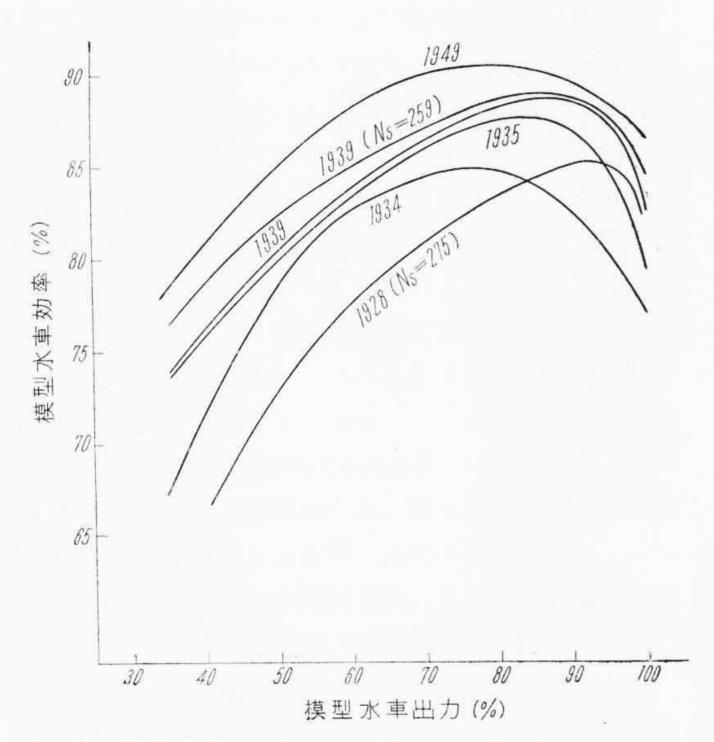
カブラン水車

事	業	者	名	所		名	出 kW	落 差 m	水 量 (m³/sec)	回転数 (r.p.m.)	型式	台数	製作	手 者	運転開始
東	北	電	力	本		名	30,000	36.10	92.9	166.7	PMS-V	2/3	日	7 /	昭—29
東	北	電	カ	柳		津	29,000	25.80	120.0	143.0	PMS-V	2/3	三	菱	昭—28
東	北	電	カ	上		田	23,500	26.30	92.0	160.7	PMS-V	2/3	三	菱	昭—29
東	出出	電	力	片		門	22,500	20.00	120.0	125.0	PMS-V	2/3	日	<u> </u>	昭—28
北	陸	電	力	神	通第	=	20,600	31.20	75.0	200.0	PMS-V	2	富士	J.M.V.	昭—29
関	西	電	カ	兼		11	17,200	22.20	88.0	171.5	PMS-V	3	=	菱	昭—18
東	北	電	カ	Щ		郷	15,500	14.00	125.0	125.0	PMS-V	2	=	菱	昭—18
九	州	電	力	夜		明	12,700	17.70	80.4	164.0	PMS-V	1	日	77.	昭—28
東	北	電	力	新		鄉	12,500	20.50	70.0	187.5	PMS-V	4	三	菱	昭—14
	海主	首 電	力	班		溪	10,600	14.10	85.5	150.0	PMS-V	1	日	77.	昭—27
関	西	電	力」	坂		Ŀ.	9,750	26.00	41.0	240.0	PMS-V	1	電	業	昭—28
東	京	電	JJ.	15	田	切	9,000	14.10	73.0	167.0	PMS-V	2	===	菱	昭—29
九	州	電	力	大	內	原	8,330	15.75	60.0	180.0	PMS-V	1	Ξ	菱	昭—29
九	州	電	力	佐		久	7,850	24.30	37.6	280.0	PMS-V	1	日	7亿	昭—13
東	京	電	力	笹		平	7,500	11.50	76.3	150.0	PMS-V	2	E.V	W.	昭—14
東	北	電	カ	信		夫	7,000	12.50	70.0	187.5	PMS-V	1	J.M	.V.	昭—14
東	京	電	カ	金][[7,000	12.70	62.0	166.7	PMS-V	1	日	77.	昭-28
九	州	電	カ	大		Щ	6,500	27.10	28.0	257/300	PMS-V	1	電	業	昭—21
	海道			巓		越	6,500	13.00	57.4	167.5	PMS-V	1	日	7.T	昭—26
北	海	_ 道	庁	鷹		泊	7.500	28.50	26.0	333.0	PMS-V	1	日	立	昭—26
中	部	電	力	西		平	6,000	21.50	32.1	257.0	PMS-V	2	日日	7,7	昭—15
30	七電		170	石	羽	根	6,000	17.00	40.0	231.0	PMS-V	1/2	富	士	昭—28

第 1 表 本 邦 に 於 け る 各 水 車 製 作 記 録 (其の 2) Table 1. Large Capacity Water Turbines Completed in Japan (Part 2)

ペルトン水	車
-------	---

事業者名	所 名	出 kW	落 差 m	水量 (m³/sec)	回転数 (r.p.m.)	型式	台数	製 作 者	運転開始
四国電力	松尾川第二	22,200	394	6.45	450.0	$2P_1N_2$ -H	1	日 立.	昭—28
四国電力	松尾川第一	21,400	371	6.45	450.0	$2P_1N_{\hat{z}}\!\!-\!\!H$	1	日 立	昭—28
東京電力	田代川第一	20,500	349	6.25	375/400	P_1N_2-H	1	Bov.	昭— 2
北陸電力	真川第二	17,750	570	3.70	514.0	$P_1N_2\!\!-\!\!H$	2	日立	
東京電力	川中	15,670	246	7.50	300.0	P_1N_2-H	1	電 業	昭一 4
東京電力	霞 沢	14,550	455	3.65	375/400	P_1N_2 -H	3	J.M.V.	昭一 3
北陸電力	真川第一	13,900	487	3.10	450.0	P_1N_2 -H	3	日立-1 J.MV2	昭一 5
東京電力	中津川第一	13,430	417	4.10	300.0	2P ₁ N ₁ -H	3	A.C.	大—13
東京電力	一瀬	13,000	281	5.40	428.5	$2P_1N_2$ -H	1	日 立.	昭—12
東京電力	高瀬川第三	12,682	334	4.45	300.0	P_1N_2 -H	4	E.W2 電業-2	大一13
東京電力	田代川第二	12,310	429	2.67	500/600	P_1N_2 -H	2	Bov. 日立改造	昭— 2
北陸電力	小口川第三	12,000	621	1.67	514.0	P_1N_2 -H	2	電 業	昭— 4
東京電力	下流	9,400	303	3.98	375.0	P_1N_2-H	3	電 業	大一 1



第1図 竪軸フランシス水車模型試験結 果例

Fig. 1. Efficiency Curves of Vertical Francis Turbines Obtained in Laboratory Tests

ンシス水車の例を**第1図**に掲げる。図中特に記入したものム他比較回転度は大体 200 (m-kW 単位) 前後でランナー直径は大体 500 mm 前後である。

尚参考迄に外国製水車の効率及び実測値を既発表の文献より調査すれば、第2図(次頁参照)の如く大体日立製作所製品により到達された数値と殆ど大差ないことが知られる⁽⁶⁾。

水車効率の最大点は通常比較回転度の変化により最大 出力の大体 70~85% 程度に相当するが、最近ランナー の設計技術の進歩により特にフランシス水車に於ては負 荷の大体の 50~100% 範囲にて効率の最大値を任意の点 に定めることが可能となつた。これは発電所の計画上負 荷の状況或いは貯水池又は調整池の使用状況より最も効 果的な計画を行うことが出来、我国の如く豊水期より渇 水期に亘つて水量の変化の激しい処に於ては甚だ有効で ある。

(2) ランナー材質

従来日立工場に於ては独特の製作技術によりカプラン 水車のランナーブレード及びランナーボス用としてパー ライト系不銹鋳鋼 (Cr-13%) が数多く製作されて来た が、最近これがフランシス水車ランナー用としても屢々 採用されるに到つた。パーライト系不銹鋳鋼は土砂を含 む流水中の磨耗試験の結果鋳鋼の約1/3の磨耗量を示し、 オーステナイト系不銹鋳鋼 (Ni-8%, Cr-18%) に対して は耐磨耗性に於て稍々優れ、空洞現象の腐触による耐蝕 性に於て僅か劣る。

最近製作した丸山及び神通川第一両発電所用ランナーはそれぞれ仕上り約 30 t の記録品であるが、何れも自家工場に於て良好な成績を以て鋳造を完了した。この他に案内羽根、カバーライナー、或いは主軸ライナー等にそれぞれ特殊鋼或いは特殊鋳鋼が相当採用されている。

参考迄に**第2表**(次頁参照)に日立製作所にて製作せるパーライト系不銹鋳鋼製フランシス水車ランナーの例を示す。

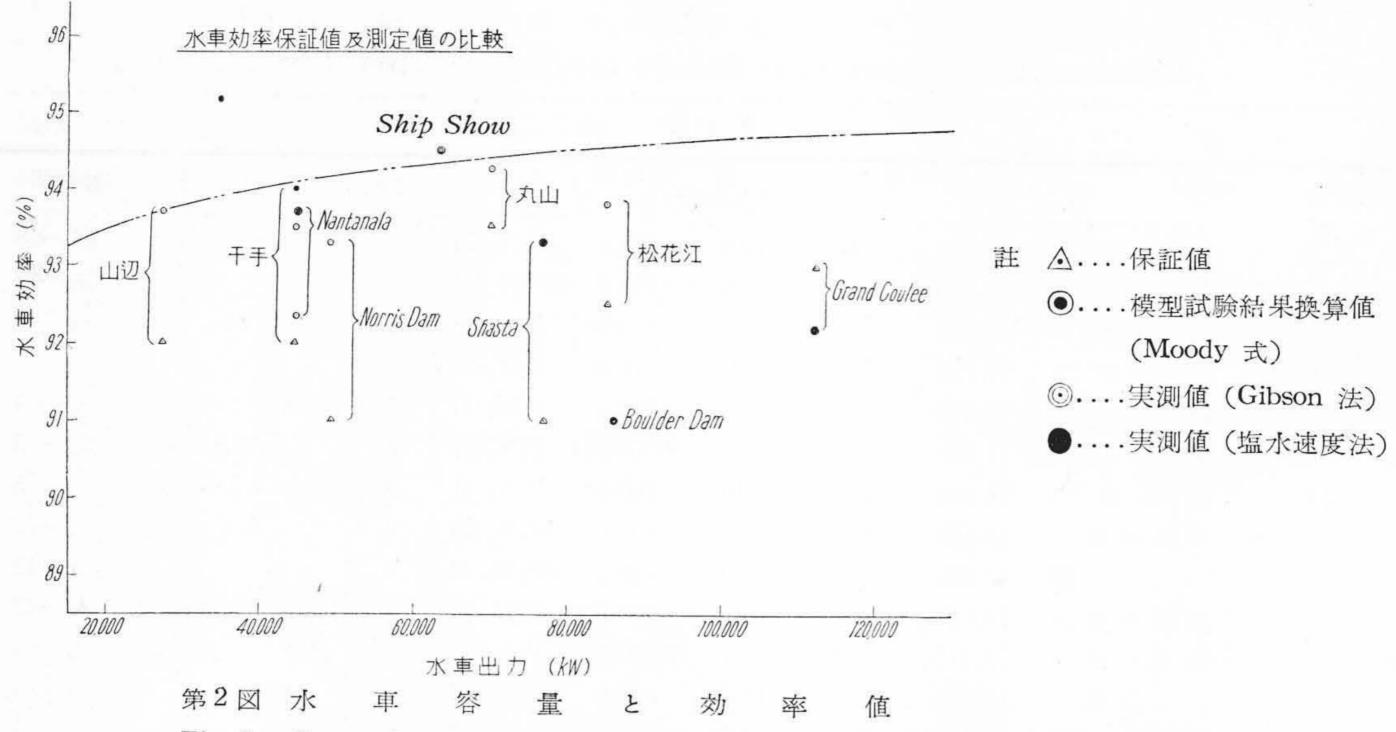


Fig. 2. Comparison between Guaranteed Efficiencies and Measured Efficiencies of Water Turbines

第 2 表 パーライト系不銹鋳鋼製 フランシス水車ランナー例

Table 2. List of Francis Runners of Stainless Cast Steel

	VIII N					
納 先	発電	所名	出力 (kW)	落 差 (m)	回転数 (r.p.m.)	台数
関西電力	丸	扟	70,000	80.00	164.0	1
北陸電力	神通	第一	48,000	61.92	171.5	2
台湾電力	天	冷	26,500	173.00	400.0	2/4
関西電力	御	岳	25,000	229.00	500/600	2
東北電力	沼沙	7 沼	23,000	200.00	500.0	2
東北電力	生化	录 內	11,330	45.19	214.0	1/3
昭和電工	広	津	11,100	202.00	600.0	2
東京電力	岩	室	6,400	159.00	500.0	2
昭和電工	常	盤	5,280	68.90	428.5	1/2
北海道電力	洞	爺	3,300	43.03	375.0	2

(3) スピードリング及びケーシングの熔接構造

水車本体の主要部分たるスピードリング及びケーシングに全熔接構造が採用されたのは、第3表の如く昭和10年に製作された湯野上発電所用3,660kW水車が我国に於て最初であつて、その後引続き多数の製作品を出した。熔接構造を採用すれば鋳造品に比し製作工程を短縮し均一な材質を得られる。ケーシング入口径1,000乃至1,100mm以下のものは作業の都合上熔接構造とすることは不可能であるが、当初は中落差以下の中容量程度のものに限られたものを次第に大容量のものを製作することが可能となり(7)、最近はこれを有効落差100m程度の領域に迄拡張される。

中落差以上の大容量のものにケーシング及びスピード リングを全熔接構造とするためには、両者を一体にして これを二つ割或いは四つ割以上に分割しそれぞれ工場に 於て熱処理を施行の上、合せ目のフランジを機械仕上と しボルト締めして、水車組立前に必ず水圧試験を実施す る。鋼板及び各熔接部には超音波探傷法、試験片採取に よる強度試験若しくはレントゲン等により、各作業の段 階毎に重要部分を確実に検討確認し得ることは鋳造品よ り寧ろ有利な特長と考えられ、今後益々この適用範囲は 拡張されるであろう。スピードリングを熔接構造とする にはステーベーンと胴板の附根の熔接部が最も重要であ つて、同部の強度を増し且つ耐磨耗度を増す為にはステ ーベーンを胴板より突抜の構造とし胴板の両面に於て熔 接すれば確実である(特許出願中)。

(4) 水量指示計及び水量積算計

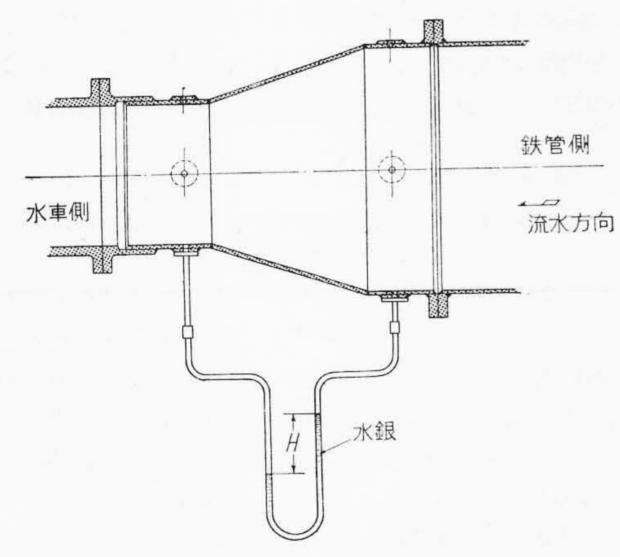
据付現場に於て実物水車の効率は測定がなかなか難かしく而も正確な数値を求めることは非常に困難である。 従つてこの水量の絶対値は暫く別としてその水量の大体の傾向を簡単に求めることが可能ならば、水力発電所の保守運営上甚だ有効であろう。この為には下記の如き二三の方法が水量指示装置の例として既に実施に移されているが、更に進んで水量記録指示計或いは水量積算計も近い将来に実現化されようとしている。

(A) ベンチュリー管法

水車入口弁(もしくは入口弁無き場合はケーシング) の前方に第3図の如き漸縮管を設け、縮流部分の前後に 於ける水柱の差圧の指示により水量を計測する方法であ る。鉄管の形状に急激な彎曲その他の悪影響がなけれ

第 3	表	熔接スピー	r y	ング及	びケーシ	ング製作記録
Table	3.	List of Tarbines	with	Welded	Speed-Ring	and Spiral Casing

納 先	所 名	出 (kW)	落 差 (m)	回転数 (r.p.m.)	型式	台数	ケーシング 材 質	スピードリング材質	製作年度
昭和電工	湯ノ上	3,660	68.5	500.0	FSS-V	2	熔接	熔接	昭—10
中国電力	小瀨川第二	1,750	31.8	360.0	FSS-V	2	熔 接	鋳 鋼	昭—11
四国電力	檮原川第一	1,800	30.2	400.0	FSS-V	1	熔 接	鋳 鋼	昭—13
東北電力	木戸川第三	1,180	18.4	500/600	PMS-V	1	熔接	熔接	昭—14
四国電力	分水第二	4,080	76.0	514.0	FSS-V	2	熔接	·熔接	昭—14
四国電力	分水第三	5,840	91.8	514.0	FSS-V	2	熔接	熔接	昭—14
漢江水力	清平	21,000	26.5	163.8	PMS-V	2	鋲 接	熔接	昭—14
九州電力	下 相 見	5,000	60.0	375/450	FSS-V	1/2	熔接	鋳 鋼	昭—18
東北電力	鳴子	2,700	39.5	500.0	FSS-V	1	熔接	熔接	昭—24
昭和電工	赤松	3,500	20.0	214/275	FSS-V	2	熔接		昭—25
中国電力	新湯村	5,000	62.0	450.0	FSS-V	2	熔 接	鋳 鋼	昭—25
北海道電力	蘭 越	6,500	13.0	167.5	PMS-V	1	コンクリート	熔接	昭—25
関 西 電 力	新庄	3,700	72.5	600.0	FSS-V	2	熔接	熔接	昭—25
北海道庁	鷹泊	6,500	28.5	333.0	PMS-V	1	熔接	熔接	昭—26
中部電力	久 野 脇	17,500	49.3	200.0	FSS-V	1	鋲 接	熔接	昭—27
北海道電力	班 溪	10,600	14.1	150.0	PMS-V	1	コンクリート	熔接	昭—27
東北電力	片 門	22,500	20.0	125.0	PMS-V	2	コンクリート	熔接	昭—27
中国電力	明 塚	14,500	26.1	150.0	FSS-V	2	鋲 接	熔接	昭—28
九州電力	夜 明	12,700	20.0	163.6	PMS-V	1	鋲 接	熔接	製作中
東北電力	本 名	30,000	36.1	167.0	PMS-V	2	鋲 接	熔接	製作中
電源開発	猿ヶ石第一	16,300	92.0	375.0	FSS-V	2	熔接	熔接	製作中



第3図 水量測定用ベンチュリー管 Fig. 3. Section of a Venturi Pipe for Measuring Water Flow

ば、比較的水柱の差圧に大きな誤差を生ずる恐れは少いが、常時漸縮管による損失落差を生ずる欠点を有することは止むを得ない。

(B) Index Method 法

流水が機器内を流動するときは一般に必ず損失を伴ない、その関係は下式より表わされる。

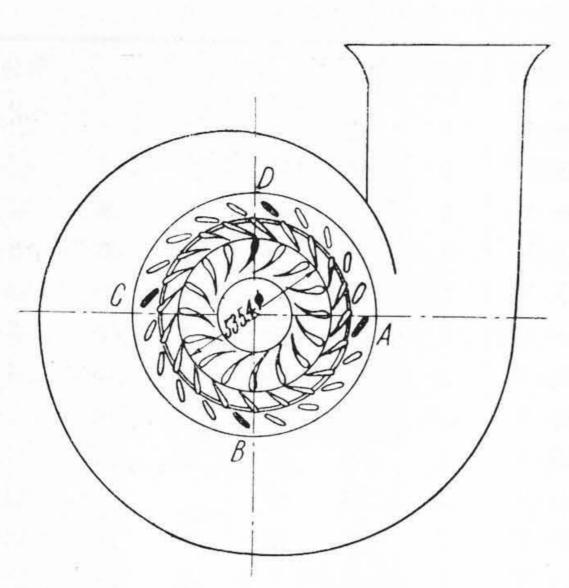
$$\log Q = \log K + \frac{1}{2} \log h$$

但し Q=水量 m^3/sec K=常数 h=水頭損失 m Kは相当広い範囲に亘つて常数と見做し得るので、 $\log Q$ と $\frac{1}{2}\log h$ とは直角座標軸では 45° の傾斜をもつ直線となる。従つて水車ケーシング(Winterkenedy 法)又はスピードリング固定羽根 (Peck 法)の間で二点の圧力差をとり出し、これより水量を計測することが出来る $^{(8)}$ 。

日立工場水力実験室で多数の模型水車に就き Peck 法による差圧の測定を実施し、実物水車に取付ける測圧孔の基礎試験を行つた⁽⁹⁾。それは**第4図**(次頁参照)に於て AB 間の固定羽根が最も安定な流動状況を示し、固定羽根の測定孔は1と5の関係が良好で、その指示差圧は最大負荷時に於て大体有効落差の 10% 程度に達する。

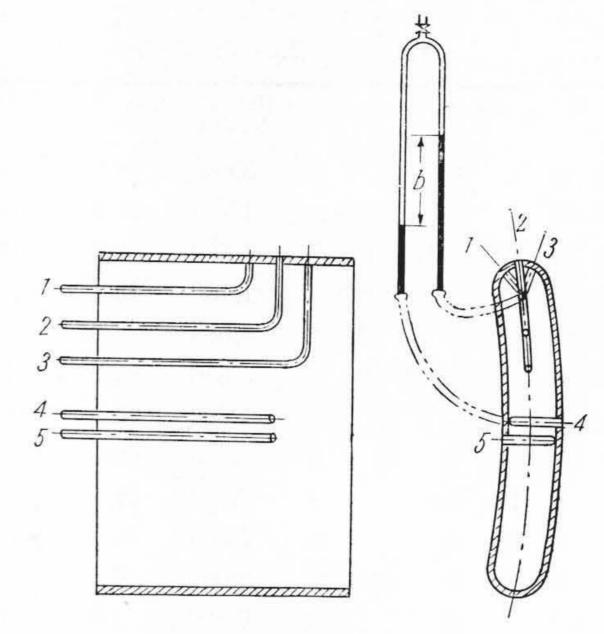
(5) 水圧自動閉鎖式案内羽根

水圧により自動的に閉鎖する案内羽根構造は既に相当 多く採用されるようになつて来た。これが目的とする処 は運転中油圧が事故その他により万一低下した際に水圧 による不平衡力により案内羽根が自動的に安全に閉鎖す ることで、而もその為に絶対に水圧の異常上昇を来たさ ないことを必要とする。従つてこのような目的に沿う案 内羽根の構造を含む水車の設計製作は甚だ至難であつ て、この実施に当つては単に案内羽根の形状だけを追跡 するのみでは不十分である。



(a) 測圧孔を備えた固定羽根の位置 (図中黒塗の固定羽根がそれを示す)

Stay Vanes of Model Water Turbine with Pressure Measuring Holes (Black Vane in the Aboves Fig.)



(b) 固定羽根にとりつけた測圧孔の位置

Positions of Pressure Measuring Hole on Stay Vane

第4図 Index Method 法 に よ る 測 定 孔

Fig. 4. Pressure Measuring Hole for the Index Method

水圧自動閉鎖式案内羽根構造の最初着想当時より直ちに日立工場水力実験室に於ては多数の模型水車に対し種々の案内羽根によつて比較試験を行い、案内羽根の形状に十分満足し得るものが得られていた。丸山及び神通川第一発電所用両水車以降にこれを適用するに際しては、その形状、開閉機構及び油圧保護装置(特許出願中)等に対し細心の注意を払つている。

マンホールカパー メタルケースカパー オ国動環 油型 メタル 油油面 ルカカ管

第5図 セグメント 軸 受 構 造 図 Fig. 5. Sectional View of the Segmental Guide Bearing

(6) セグメント軸受

竪軸フランシス水車の主軸受に第5図のようなセグメント軸受を使用すれば潤滑油ポンプ、冷却器、配管もしくは潤滑油等の資材を節減することが出来、且つ水車及び発電機の中心測定は相当容易となる(実用新案 No 318985)。この構造は既に龍島発電所用 13,400 kW 水

第 4 表 セグメント 軸 受 採 用 例
Table 4. List of Turbines with Segmental
Guide Bearing

納 先	所 名	出力 (kW)	落 差 (m)	回転数 (r.p.m.)	台数
関西電力	丸山	70,000	80.00	164.0	1/2
北陸電力	神通第一	48,000	61.92	171.5	2
関西電力	御 岳	25,000	229.00	500/600	2
東北電力	伊南川	25,000	109.00	300.0	1/3
電源開発	猿ヶ石	16,300	92.00	375.0	2
新潟県庁	三面	15,000	65.00	300.0	2
中国電力	明 塚	14,000	26.14	150.0	2
九州電力	桑の内	6,700	51.40	360.0	1
日 軽	佐 野 川	6,000	146.00	720.0	1
九州電力	下見相	5,000	59.00	450.0	2
中国電力	新湯村	5,000	62.00	450.0	2
東京電力	蔵本	3,800	63.00	600.0	1
昭和電工	赤松	3,500	20.00	214/257	2
東北電力	滝 淵	2,850	120.00	500.0	2
日本鉱業	柿の沢	2,800	101.32	600/720	2
東北電力	鳴 子	2,700	39.50	500.0	1

車改造⁽¹⁰⁾、三面発電所用 16,500 kW 水車⁽¹¹⁾その他多数 水車に実施されて良好な運転結果を收め、最近は大容量 水車の購入仕様書にこのような構造を採用する旨記載さ れるようになつた。第4表にセグメント軸受構造を含む 水車例を示す。

この構造には尙必要に応じて油面継電器或いは水分混 入継電器を設け油面低下時或いは水分混入時に警報を発 する構造を採用し(特許出願中)、調整ボルトの固定には 特殊のロックナットを用いる等の改良を加え益々確実な ものとしている。

[III] カ プ ラ ン 水 車

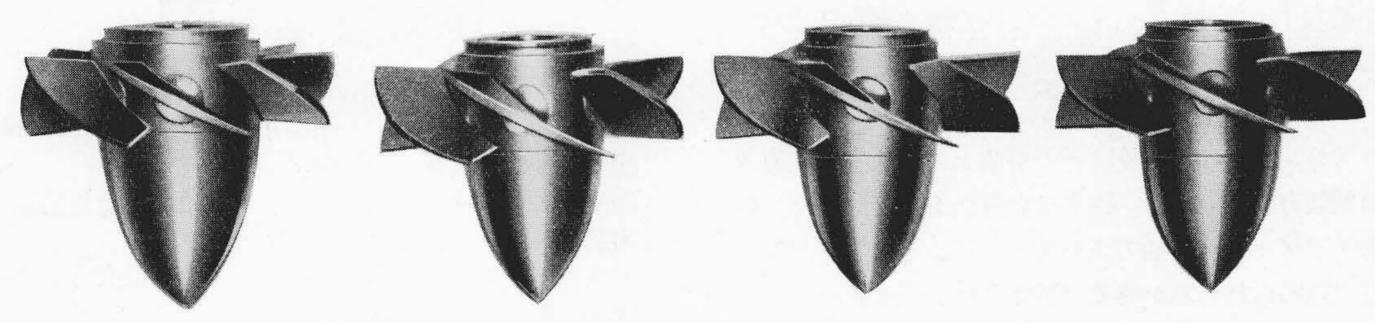
(1) 適 用 落 差

カプラン水車はフランシス水車に比較しランナーブレードの翼素を増速翼列として理論的にも実験的にも究明 し易い関係上、ランナーの翼型の改良、水車効率の増昇 及び空洞現象の発生防止等の点に対して各国共益々積極 的に研究改良が加えられ、嘗てはフランシス水車の適用 *範囲とされた中落差領域に次第に伸展するに到つた。現在有効落差 30m 以上のカプラン水車の運転或いは建設中の著名なものを第5表に示す。

既に知られる如くカプラン水車を中落差に適用するにはランナーのブレード枚数を増加するを要する(12)。然るときは翼列の干渉は大きくなり、又ランナー内の操作機構は益々複雑化して来るため、その設計製作は決して容易でない。

日立工場水力実験室にはこの研究設備の一として従来の低落差空洞現象試験装置の他に、実落差空洞現象試験装置を設備し、従来の装置では解明出来なかつた実落差の下に於ける空洞現象の発生状態を検討することが可能となり、この方面の研究に一大進展を期待し得ることなった。

前述の本名発電所用 30,000 kW カプラン水車に関しては本試験装置により模型水車の空洞現象試験に好成績を收めることが出来た。第6図に最近の空洞現象試験を使用した模型ランナーの一部を掲げる。



第6図 空洞現象試験用カプラン水車模型ランナー例 Fig. 6. Kaplan Model Runners for Cavitation Test

第 5 表 高 落 差 (H=30 m 以 上) カプラン水 車 製作 例 Table 5. List of Kaplan Turbines Used for High Heads (Over 30 m)

国 名	所 名	出 (kW)	落 (m)	水 量 (m³/sec)	回 転 数 (p.p.m.)	製作者	製作年度
	Barcis	9,270	63.50		500.0	E.W.	1951
Irland	Pollaphuca	18,870	50.50		300.0	A.d.C. 及び J.M.V.	
	Pego Doatlre	2,030	38.00		600.0	E.W.	1944
日 本	本 名	30,000	36.10	92.9	166.7	日立	製作中
India	Mahanadi I	40,060	34.5-23.80	167.0	125.0	J.M.V.	場作中
Uruguay	Rio Negro	30,000	34.5-23.00		125.0	M.S.	製作中
	Montefurad	13,300	33.05		300.0	E.W.	1948
Uruguay	Rioncon del B.	33,600	32.0-16.70		136.6	J.M.V.	1942
Irland	Shannon	25,100	32.0-25.15	100.7	166.7	J.M.V.	1932
	Aswan	48,500	31.20		100.0	E.W.	1948
Sweden	Hojun	45,600	31.20	165.0	136.6	V.K.	1942
日 本	神通川第二	20,600	31.20	75.0	180.5	Voith-富士	製作中
	Roznon	13,100	31.00		214.3	E.W.	1936
U,S.A.	Ice Harbor	77,600	30.8-24.00		4		製作中
Germany	Deichow	26,700	30.50	100.0	187.5	E.W.	1934
U.S.A.	Cabinet Gorge	52,600	30.20				1952

(2) ランナー構造

カプラン水車は構造上主軸の途中にランナー操作用サ ーボモータを設けるが、その設置箇処により種々のラン ナー操作方式に分れる(13)。従来は水車と発電機の中間の 主軸の一部にこれをおくものが最も数多く採用された が、最近はこれを発電機回転子中に含めるもの(14)、或い はこれを回転子上部に設けるもの(15)等を見受けるに到 つた。尙これに水車及び発電機回転部分に対する推力軸 受の設置箇所との組合せ方如何も加えられて、カプラン 水車の構造は益々数多くの型式が今後も考案実施される ように思われる。しかしこれ等の構造はそれぞれ一長一 短を有することは明らかであつて、その採用に当つては 十分内容を検討すべきである。

ランナー内への流水漏入防止装置としてはランナー内 潤滑油を主軸部の空気室により加圧し、ブレードステム 部パッキングを寧ろ内圧に耐えさせる構造とするのが最 も確実であつて(16)、この構造が次第に各製作者(外国を も含む)に採用されるに到つた。カプラン水車の適用落 差が増大するにつれて、ランナー内の流水漏入防止及び 潤滑油漏出防止には慎重なる注意を要する。

(3) 主 軸 受

カプラン水車の主軸受はその構造上グリース給油方式 と油循環方式に分れる。従来日立製作所で製作したもの はすべてグリース給油方式であつたが、その保守が簡易 な点を認められた為か終戦後製作されている各所のカプ ラン水車はすべてグリース給油方式が採用される傾向に あるように見うけられる。

油循環式を採用すれば主軸受下部に封水用パッキング を必要とするが、我国の河川は洪水時多量の土砂を含む ため、このパッキングが磨耗し易く而もその取換えが容 易でない故、この点に特別の処置を必要とする。

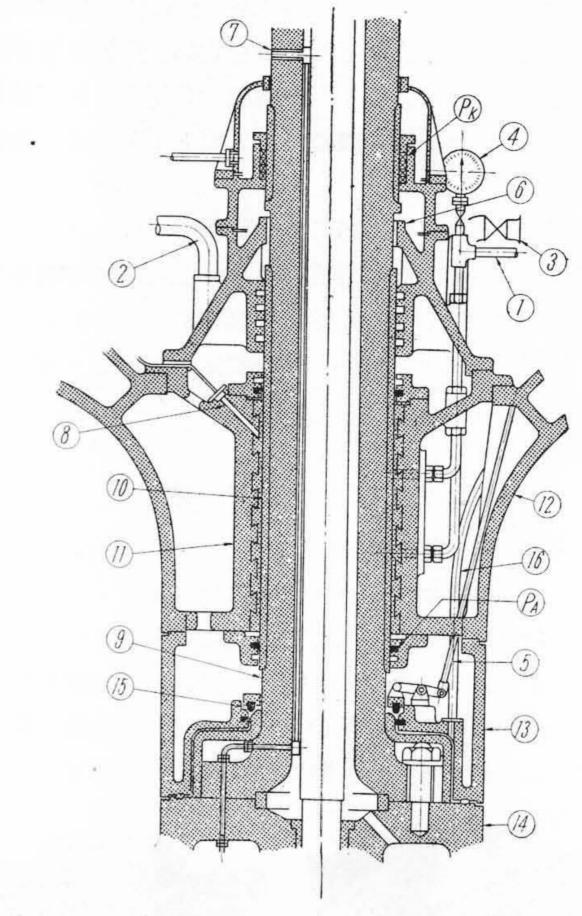
グリース給油式には実際運転結果より種々の改良が加 えられ、最近は大体第7図の如き構造を採用しているが、 その結果グリース消費量は非常に軽減することが出来、 而もその取扱いは甚だ容易となつた(17)。

「IV」ペルトン水車

(1) 洪水時水面低下装置

ペルトン水車は洪水時ケーシング内に水位が上昇する と運転が不可能となるので、従来は最大洪水位以上に水 車が設置されていた。地勢の関係上万一河川の水位の変 動が激しい地点にペルトン水車が設置される場合は、最 低水位と最大洪水位との間の落差が放棄されることにな り、我国に於てはこのような地点がかなりあるためその 損失エネルギーは相当量に達している。

今回松尾川第二発電所用 22,200 kW ペルトン水車の



①グリース給油管

②清水給水管(主軸受冷却用)

③自動空気吸入弁 ④グリース圧力計

⑤停止後に於ける主軸フランジ部漏水浸入防止装置

⑩水車カバー內側(上) ⑬水車カバー內側(下)

⑥主軸及びランナー分解後懸垂箇所

①ランナーよりの漏水排水孔

⑧温度計取付孔

9主軸 ⑩主軸ライナー

⑪主軸受

(4)ランナーボス

(15)ゴムパッキング

16空気送入管

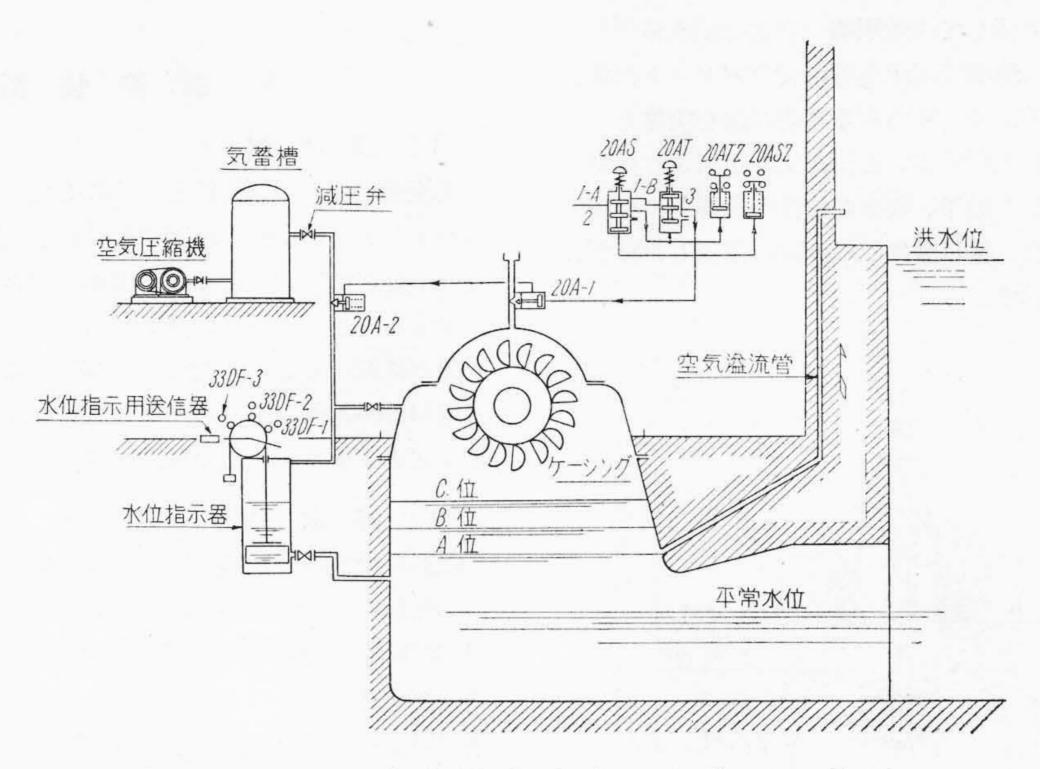
カプラン水車グリース給油式主軸受構造 第7図 (特許 179950 号)

Fig. 7. Sectional View of Grease Lubricated Guide-Bearing for Kaplan Turbine (Pat. No. 179950)

計画に当つては第8図の如く最低水位と最大洪水位間の 落差が 6.7 m に達したため、運転中水位が上昇した場合 は積極的にケーシング内に圧縮空気を自動的に圧入して ケーシング内の水位を低下させること」し、水車中心位 を最低水位より 3.8 m の高さに設置する案が採用され た(特許出願中)。これにより第1表の如く松尾川第一発 電所用 21,200kW 水車と略々同一仕様の水車となり、両 者は建家の構造様式は全く異なるが、水車及び発電機は 全く同一の機器を設計製作し得ること」なり大きな利益 を收めることが出来た。

(2) 竪 軸 構 造

ペルトン水車を竪軸構造とすれば、横軸構造に比し水 車効率は上昇し、建家の据付面債を縮減し、水車及び発 電機の所要資材を軽減することが出来る。白根発電所用



第8図ペルトン水車洪水時水面自動低下装置

Fig. 8. Automatic Water Level Suppressing Device for Operating Pelton Wheels at Flood Times

ペルトン水車の計画に当つてはこれ等の点に関し詳細検 計の結果**第9図**(次頁参照)の如く竪軸案が採用される こと」なつた⁽¹⁸⁾(**第6表**参照)。

本水車の特長の一としてノズル4箇にそれぞれサーボモータを設けて水位調整機により自動的に第10図(次頁参照)の如くノズルを1本、2本及び4本に切換えて通水し高能率運転を行なわせること」した(特許申請中)。元来竪軸構造とすれば横軸構造よりも水車効率は高くなるものであるが、更に上述の構造により軽負荷に於ける

効率を著しく高めることが出来る(19)。

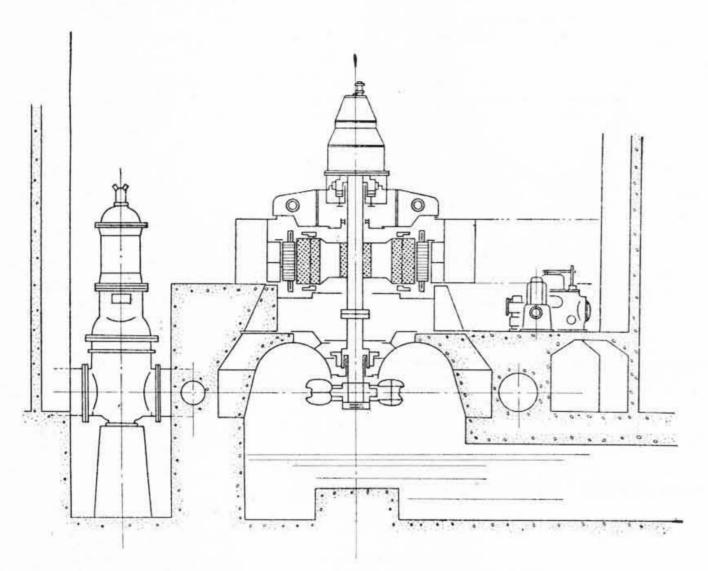
横型試験に際しては噴射水がバケットに当つて上方にはね返る落下水滴により、バケットの裏をたゝかれる点に特に関心をもつて、6種のカバーを作つて比較試験を行い、その中の最も性能の良好な形状を選定することゝした。このはね返りの水滴はカバーの形状が良好であれば、水量が増大するにつれて外方に半球面状にバケットの外周に拡がつて落下し、噴出水の作用に全く障害を与えないことが判明した。

第6表竪軸ペルトン水車製作例 Table 6. List of Vertical Pelton Wheels in the World

国 名	発 電 所 名	出 (kW)	落 (m)	水 (m³/sec)	回 転 数 (r.p.m.)	台数	製作者	製作年度
Canada	Kemano	106,000	760	(15.62)		3(16)	P.W.W.C.	1954
Canada	Bridge River	46,250	366	(146.00)	300	3(10)	P.W.W.C.	
France	(不 明)	34,200	400		350			
	Handeck	22,400	540	(4.80)	500	4	E.W.C.	1924
	(不 明)	22,400	365	(7.16)	428			
Spain	Rio Cinca	15,250	490	(3.65)	500	5	Boving	
Chile	Mai Po	13,900	229	(7.00)	250	3	E.W.C.	1727
日本	白 根	12,000	204	6.66	300	1	日 立	1953
AND SHEET	Cardano	11,000	144	(8.68)	250		E.W.C.	
	不 明	10,000	400	(2.95)	600		E.W.C.	
	Biaschina	7,450	260	3.75)	300		E.W.C.	1913
U.S.A.	Bear Rioer	55,000	10 1 N				P.W.W.C.	

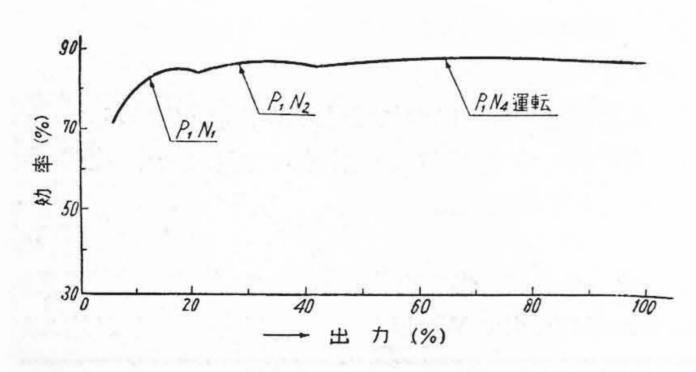
備考 () 内数字は計算による推定数値を示す。

ペルトン水車に関しては然別第一発電所用水車(20)、松 尾川第一及び第二発電所用水車等に就きバケット形状、 取付角、ノズル等に就きあらゆる基礎試験を実施し、そ の性能を飛躍的に上昇することが出来たが、これを更に 竪軸構造に進展した結果、両者の特性の相違を十分調査 することが出来た。第11図にこの試験に使用した模型ランナーの一部を示す。



第9図 竪軸ペルトン水車及び発電機構造図 (特許申請中)

Fig. 9. Longitudinal Section through a Vertical Pelton Wheel and Generator Set



第 10 図 竪軸ペルトン水車の高能率運転を 行う 場合の効率曲線

Fig. 10. Efficiency Curves of a Vertical Pelton Wheel Operated with Number of Nozzles Changed

[V] 調 整 装 置

(1) 調速機

調速機を従来の制御盤と一体にして所要の計器及び操作ハンドルを制御盤の前面に取つけ、内部機構は運転中でも十分点検出来るような所謂キャビネット型調速機を完成することは長い間の懸案であつたが、愈々その完成を間近に迎えること」なつた。第12図に神通川第一発電所用 48,000 kW 水車の一部として納入される日立標準キャビネット型調速機の外観骨子図を示す。

(2) 制 水 弁

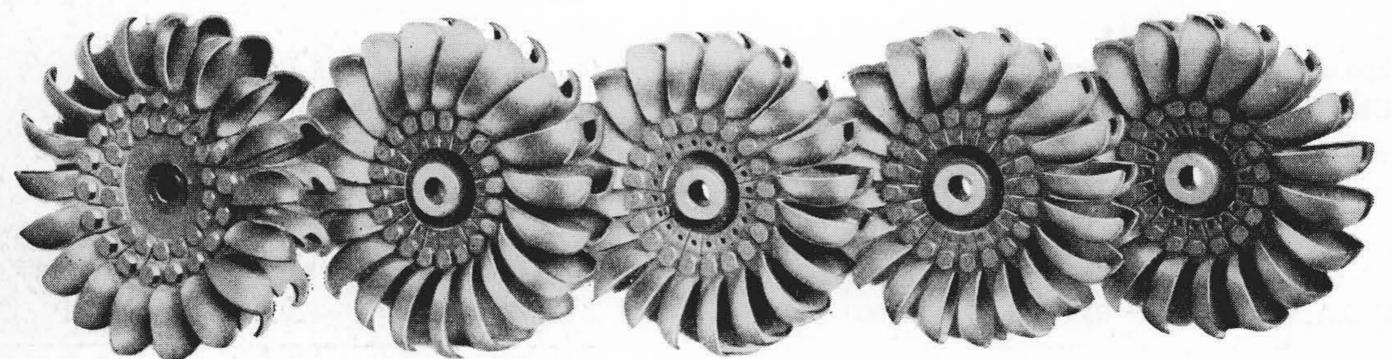
蝶形弁の弁の外周に矩形状ゴムリングを挿入し全閉時の水漏れを防止する構造が考案実施され、千手発電所用44,760kW 水車に良好な実績を收めてより(21)、このゴムパッキングに種々の改良が加えられ、蝶形弁は次第に中落差以上の領域に進出採用されるに到つた。

第13図は天冷発電所用 26,500 kW 水車及び神通川第一発電所用 48,000 kW 水車の入口弁に採用された管状ゴムリングの骨子図で、弁全閉後管状溝内に圧力水をプランジャーポンプで圧入しパッキングを弁体側に密着させて水圧を完全に遮断し得る(特許出願中)。前者は既に工場に於ける水圧試験及び据付現場に於ても良好な成績を得ており、今後中落差以上に蝶形弁を適用するための好適な構造の一と考えられる。

沼沢沼、天冷、明塚等各発電所用鉄管弁に使用される 蝶形弁には、何れも第14図の如き電動式構造が採用され た。何れも電源の故障時に備えて手動操作ハンドルを有 する。

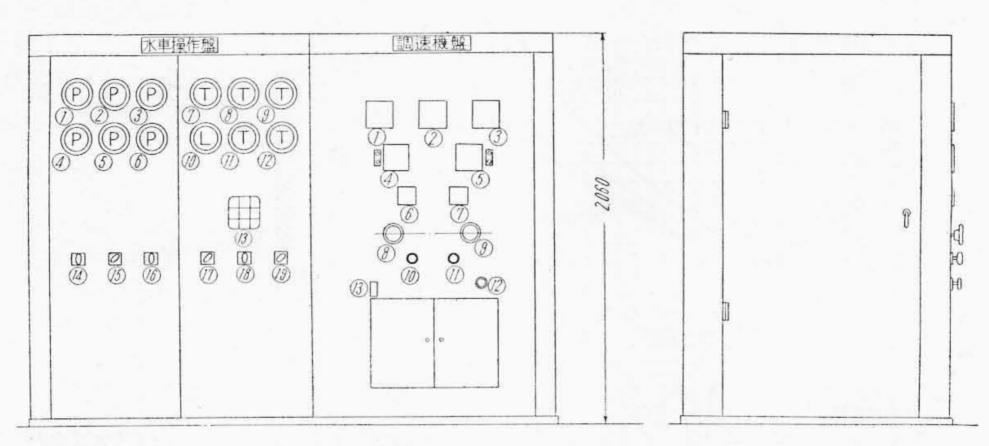
(3) 高能率運転装置

我国の河川は豊水期及び渇水期間の水量の変化が激しく、水路及び負荷の状況によつては毎日の負荷が相当激しく変動する地点もあり、しかも種々の事情から設置台数を減少して単位容量を増大する傾向にある。従つて水車の軽負荷時、変落差時或いは周波数変動時に於ける効率を手動又は自動的に増昇せしめるよう努力することが肝要である。かくの如き改善実施例を次に述べる。



第11図 ペルトン水車模型試験用ランナー例

Fig. 11. Pelton Runners for Model Test



水 車 操 作 盤

- 1. 鉄 管 水 圧
- 2. ケーシング水圧
- 3. ランナー外周圧力
- 4. ランナー外側背圧
- 5. ランナー内側背圧
- 6. 吸出管真空度
- 7. 発電機案內軸受温度
- 8. 発電機推力軸受温度
- 9. 水車主軸受温度
- 10. 吸出管水位
- 11. 発電機空気冷却器入口温度
- 12. 発電機空気冷却器出口温度
- 13. 集合表示灯
- 14. 入口弁開ハンドル
- 15. 入口弁閉ハンドル
- 16. 水車運転用ハンドル
- 17. 水車停止用ハンドル
- 18. 空気弁及ビ給水弁開ハンドル
- 19. 空気弁及ビ給水弁開ハンドル

盤 調 速 機

- 1. 油 圧 計
- 2. 発電機出力
- 3. 回 転 計
- 4. 負荷制限ガイドベーン開度
- 5. 速度調整位置指示
- 6. ブレーキ空気圧
- 7. 速度調定率指示計
- 8. 負荷制限ハンドル
- 9. 速度調制ハンドル
- 10. ブレーキハンドル 11. 速度調定率調整ハンドル
- 12. 非常停止用ハンドル
- 13. キャビネットスイッチ

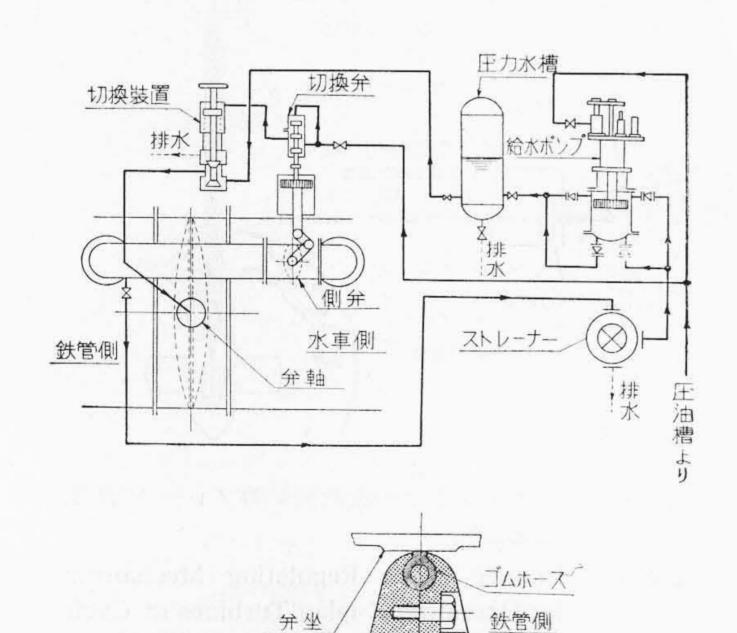
T = 温度計 P = 圧力計L=水位指示計

第 12 図

日立標準キャビネット型調速 機外観図

Fig. 12.

Outside View of Hitachi Standard Cabinet Type Governor



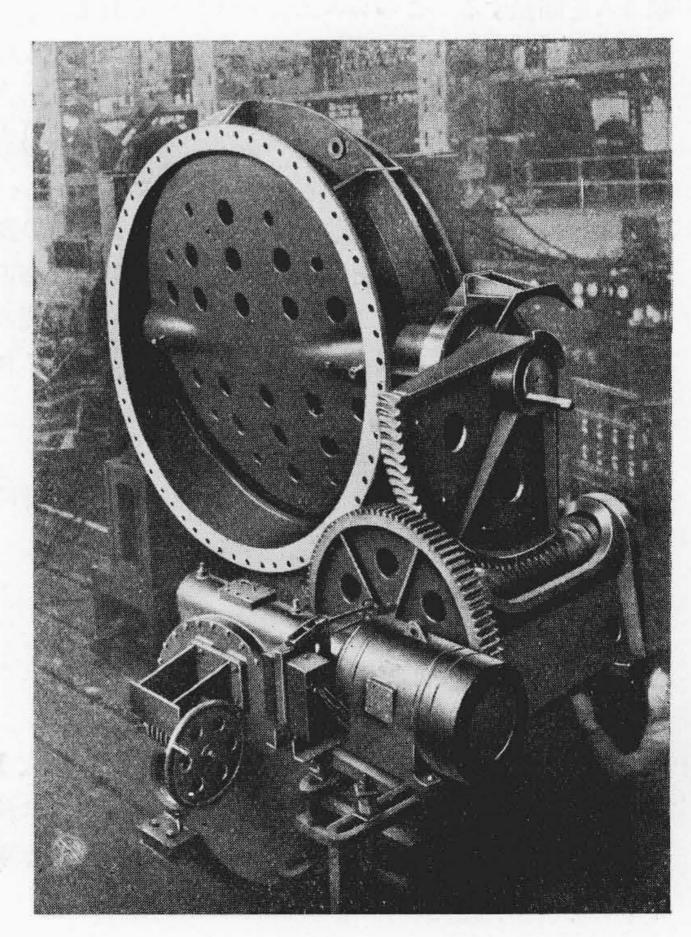
第13 図 蝶 形 弁 漏 水 防 止 装 置

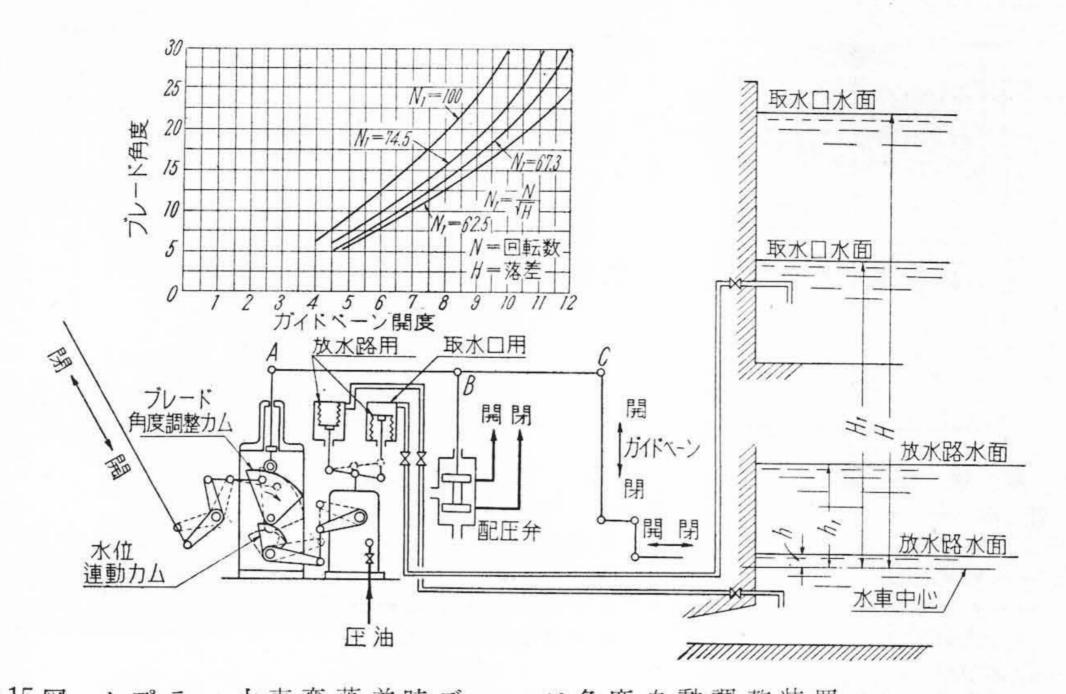
Fig. 13. Water Sealing Method for Butterfly Valves

第 14 図 電動式蝶形弁工場內操作試験 →

ゴムホース押へ

Operating Shop Test on a Motor-Operated Fig. 14. Butterfly Valve





第15回 カプラン水車変落差時ブレード角度自動調整装置 Fig. 15. Automatic Regulating Mechanism of Runner Blade under Variable Heads

(A) カプラン水車変落差時ブレード角度自動調整装 置

貯水池或いは調整池の水位変動の激しい地点にカプラン水車が採用される場合、落差の変動に応じて自動的にブレード角度を案内羽根開度の関係を最も効率のよい位置に移動することが出来る。 第15 図はその操作系統図で、取水口と放水路の水圧の変化で動作するベローにより圧油を操作力とする腕を動作させ、これにより水位連動カムを回転する。このカムによりブレード角度と案内羽根角度を調整するカムの回転軸の位置を上下に調整し、有効落差変動による修正を行うことが出来る(特許出願中)。

(B) カプラン水車周波数変動時連動装置

送電系統の周波数が規定値より変動した場合、その変動に応じてブレード角度と案内羽根開度を自動的に修正させるもので、ランナーと案内羽根両サーボモータ間の復原機構の途中に第16図の如く周波数の変動に応ずるスピーダーを別に設けたものである(特許出願中)。

(C) ペルトン水車針弁自動切換装置

横軸ペルトン水車にはランナーとノズル数の組合せにより下記の如く類別される。

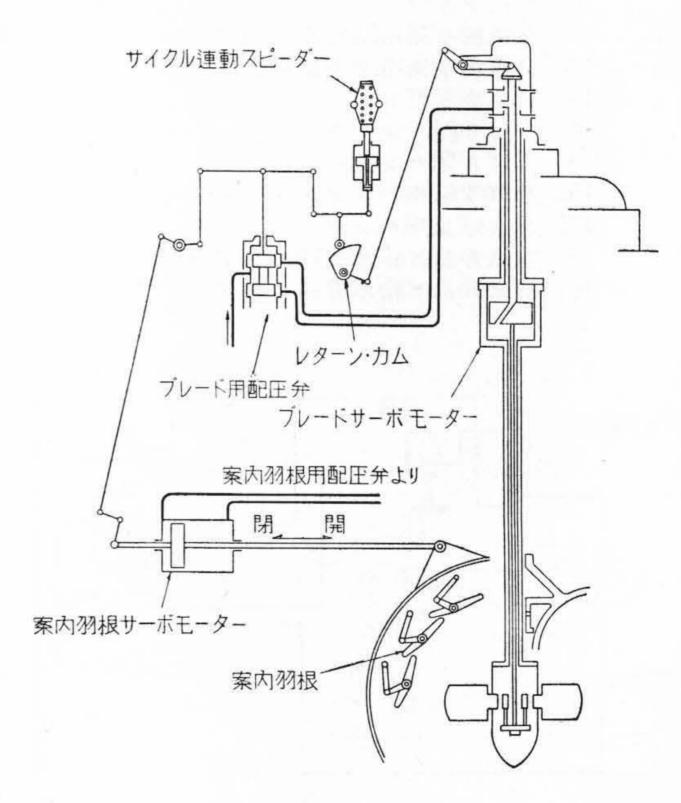
P₁N₁-H....単輪単嘴管ベルトン水車

P1N2-H....単輪二嘴管ペルトン水車

P2N2-H....二輪二嘴管ペルトン水車

P2N4-H....二輪四嘴管ペルトン水車

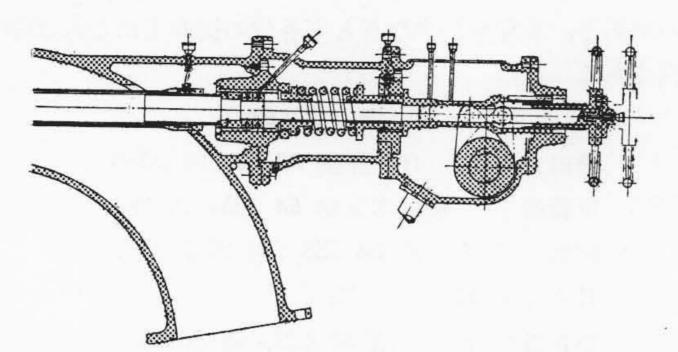
従つて渇水期全般を通じ或いは毎日の負荷変動に伴なう 軽負荷時に際し上述のノズル箇数を手動切換若しくは負 荷の変動に応じて自動的に切換えるようにすれば、水車 効率を相当上昇させることが可能である。



第16図 カプラン水車周波数変動時ブレード 角度 連動装置

Fig. 16. Runner Blade Regulating Mechanism for Operating Kaplan Turbines at Cycle Change

手動による切換装置は、第17図例の如き構造によりすべての針弁をサーボモータにて一旦全閉し、所要のノズル以外を手動クラッチにて固著しサーボモータとの連動を外すもので、本構造はこの切換を比較的簡単確実に行い得る特長を有し(特許出願中)、季節的にその切換を行う地点に適当である。



第17図 ペルトン水車手動式ノズル切換装置 (特許出願中)

注: ハンドル 右回数で 1ノズル運般 左回数で 2ノズル運般

Fig. 17. Mannal Nozzle Operating Device for Pelton Wheel

自動的に切換を行うにはこれが検出方法及び切換ノズル箇数の組合せにより種々の構造が考えられるが、然別第一発電所用 $14,000 \, \mathrm{kW}$ 水車及び松尾川第二発電所用水車にはパワーレギュレータより松尾川第一発電所用水車には水位調整機をそれぞれ検出部とし、何れも P_2N_4 -H型式の水車に対し2箇のランナーの針弁を負荷に応じて 2本4本に自動的に切換えるものである(特許出願中)。

(4) 調相機運転

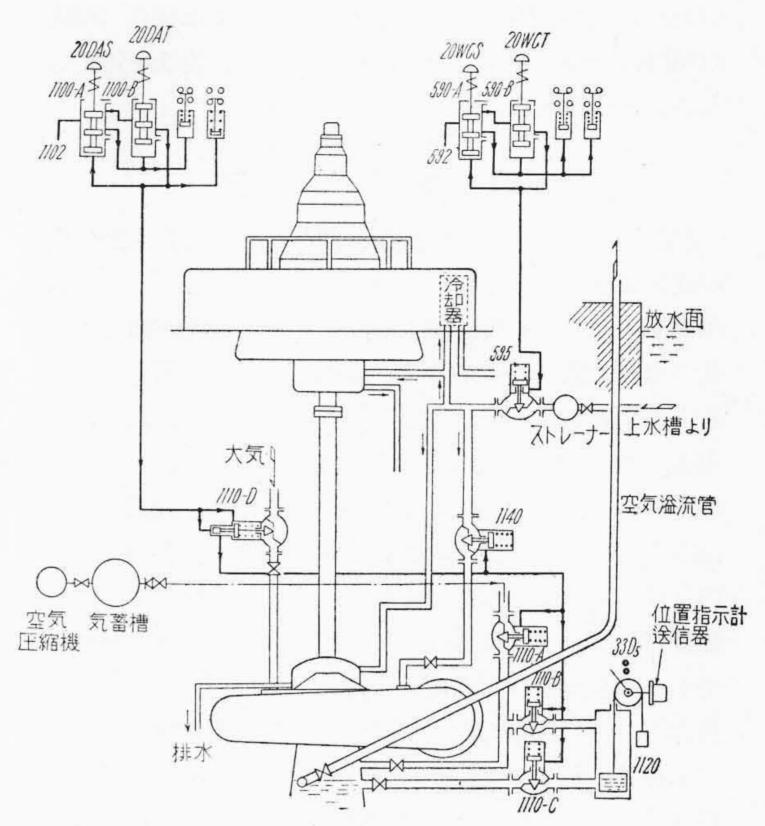
終戦後製作納入されたランナーが従前のものに比し腐 健磨耗が激しいと云う批判を折々受けることがある。これは戦時中森林の樹木の濫伐により山肌を荒廃させたことにより流水中に土砂の含有量を増加せしめ、又一時工 場に入荷された素材の材質不良なものを止むを得ず使用したこと等の他に、送電系統の電圧の低下を防止するために水車発電機として無負荷に近い運転を行う場合があること、或いは発電所としては軽負荷運転時にこれを1台運転として残余水車を停止することなく、種々の事情により数台全部に極く僅少の負荷をかけること等が屢々見受けられる。

後の二者に就いては何れにしても水車側としては極めて好ましくない運転状態であつて、例えば、

- 1. 水車として極めて低い効率の範囲に属する運転であること。
- 2. 貯水池或いは調整池の貴重な水を流出せしめること。
- 3. ランナーに就いては思いの外腐蝕磨耗を促進させること。

等になり易い。

寧ろこのような場合には水車への通水を停止して発電機を調相機運転とし、無効の放流を止めて貯水すること」し、水車の負荷は極力1台に纒めて大きな負荷をかけるように努力すれば、水車としては出力を増加すると同時に、ランナーの腐蝕磨耗を軽減し、しかも送電系統の



第 18 図 洪水時調相機運転用水車ケーシング自動排 水装置

Fig. 18. Automatic Dewatering Device on Turbine Casing for Condencer Operation during Flood Times

電圧をあげることが可能となる。既設発電所に於て調相 機運転を実施するための改造は極く僅かの追加資材で行 うことが出来、その結果は非常に大きな出力増加が收め られる。

第18図は洪水時放水面が水車ケーシングより上位にな る場合でも調相機運転を行わせる系統骨子図で神通川第 一発電所用水車に採用されたものである。図に於て発電 運転より進相運転に切換えるには、切換スイッチを進相 側に切換え、主幹制御器を「入口弁閉」の位置に戻せば ガイドベーン及び入口弁が全閉される。同時に進柱運転 用電磁石 20 DAS が附勢されて電磁弁 1100-A を操作 し、圧油 1102 を空気弁 1110-D に通じる。 空気弁 1110-D は吸出管振動防止用送気管途中に設けられ、発 電運転時には開放されているが、圧油が通じれば直ちに 全閉して大気との連絡を遮断する。この弁の頂部には油 圧切換弁があつて全閉と同時に圧油を次の1140給水弁、 1110 A, B, C 空気弁に送る。1140 給水弁は冷却水をラ ンナー外周に送つて空転による過熱を防止する。又1110 A, B, C の開放によつて気蓄槽よりの圧縮空気は吸出管 内に送入され、水面を圧下してランナーを離水せしめる。 圧下水位は空気溢流管の開口位置によつて定まるが、尙 それは吸出管と連通するフロートタンク内の水位指示装 置によつて常時配電盤に表示される。圧下中に万一故障

のため水位が危険限界まで上昇した場合には接点 $33D_5$ の閉路によつて急停止用継電器が仂らき、運転を停止させることが出来る。

[VI] 結 言

最近の水車の設計製作技術に関し主として日立製作所 の成果より生み出されたもの」一部を紹介した。元来我 国の河川は豊水期及び渇水期間の水量の変化が激しく、 且つ水質の悪い地点が多く、輸送に不便な箇所も相当あ るように思われる。しかし我国の今後の新設計画には極 力建設若しくは運転に要する経費及び資材を節減し、し かも最大負荷時の運転効率を増昇するため、設置台数を 減少して単位容量を増大させる傾向が強い。従つて我国 内に使用される水車にはそれぞれの異なる事情を十分考 慮検討の上計画されるべきであつて、取扱いが容易確実 でしかも強度及び耐久度の十分な材質構造のものを設計 製作しなければならない。又水路及び負荷の状況によつ ては毎日の負荷の変動が激しく軽負荷若しくは過負荷に 於ける効率の高いことが要望され、ランナーの性能向上 は最も重要な研究問題である。尚渇水期に於ける出力増 強には特に工夫努力が肝要であろう。日立製作所に於て 考案されたこれ等に関する新規着想或いはその実施例は 極めて多方面に亘り水車の性能も著しく改善され我国水 車製作技術の先駆をなしている観がある。海外の文献そ の他によればこれが新規考案の一部は同様の状況の下で は、外国でも最近かなり使用されていることが判明した。

我国内若しくは国外に於ける水力開発が頓に活発な折 柄、内外の水車製作に関する技術の進歩は益々著しいも のがある。本文が多少なりとも各位の御参考になれば幸 甚である。

参考文献

- (1) 徳田、小森: 日立評論 32 50 (昭 25-2)
- (2) 伊藤龍平: 機械学会誌 54 295 (昭 26-8)
- (3) 深栖: 日立評論 34 638 (昭 27-5)
- (4) 日立評論 32 7 (昭 25-7)
- (5) 小森谷: 日立評論 33 429 (昭 26-6)
- (6) 小森谷: 機械の研究 (昭 27-10)
- (7) 斎藤、深栖: 日立評論 24 505 (昭 16-11)
- (8) G.H. Voader: "Index Test of Hydraulic Turbine" Trans of A.S.M.E. 441 (1951–7)
- (9) 山崎、手島: 日立評論 34 1177 (昭 27-10)
- (10) 小森谷: 日立評論 32 69 (昭 25-2)
- (11) 田中、吉山: 日立評論 34 1367 (昭 27-12)
- (12) 深栖: 日立評論 23 181 (昭 15-3)
- (13) 深栖: 水車の理論と構造 125
- (14) H.F. Canaan: "Der heutige Stan dder Wasserturbinenfanes" V.D.I. Band 93 No. 35 (1951)
- (15) 実用新案 第 347200 号 実施箇所 仏国 Mondragon 発電所 52,000 kW, 23.5 m, 107 r.p.m. E.W. 製
- (16) 深栖: 機械 14 1 (昭 16-5)
- (17) 深栖: 機械学会誌 145 (昭 17-3)
- (18) 管: 電力 37 25 (昭 28-1)
- (19) 日立評論 35 11 (昭 28-1)
- (20) 田中: 日立評論 35 509 (昭 28-3)
- (21) 今井: 日立評論 20 403 (昭 12-6)

